

ひろば型

常設のひろばを開設し、子育て家庭の親とその子どもが気軽に集い、うち解けた雰囲気の中で語り合い、相互に交流を図る場を提供します。また、出張ひろばや地域の子育て力を高める取組（学生ボランティア、世代間交流、父親の子育て支援など）を実施します。

- 実施主体 市町村（特別区を含む。）
ただし、社会福祉法人、NPO法人、民間事業者などへの委託等も可。
- 基本事業 ①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
②子育て等に関する相談・援助の実施
③地域の子育て関連情報の提供
④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- 従事者 子育て親子の支援に関して意欲があり、子育ての知識と経験を有する専任の者（2名以上配置）
- 実施場所 公共施設内スペース、商店街空き店舗、学校の余裕教室、幼稚園、民家、マンション・アパートの一室など
- 開設日数等 週3日以上、1日5時間以上



Q ひろば型がはじまった経緯はどのようなものですか？

A 少子化、核家族化が進む中、乳幼児期の子育て家庭に対する支援が身近になかったことから、地域のNPOなどが草の根的に商店街などの空き店舗等を活用し、おやこの広場やサロンなど交流の場づくりを始めました。平成14年には、実施主体を市町村とする「つどいの広場事業」が国庫補助事業として創設され、平成19年度には全国で900か所余りとなっています。

Q 具体的に子育て親子の支援に関してスタッフに求められる資質はどのようなもののでしょうか？

A ひろばのスタッフは有資格者である必要はありません。ひろばの利用者に対する調査(*)では、スタッフの対応として「温かく迎え入れてくれる」「気軽に相談に応じてくれる」といった内容に高い評価が得られました。初めてひろばを訪れる親子の不安感や緊張感を理解し、温かく迎え入れる雰囲気づくりが求められています。日常的な関わりの中で、気軽に相談相手であることが大切です。スタッフは、利用者と同じ立場で思いを受け止められる存在、何か回答を出す人、指導者ではなく、一緒にそばにいる伴走者であることが第一です。また、親子がもつ「成長する力」を信じ、親が周りの支援や学びを得て、子どもや子育てに余裕をもって関わられるよう、その過程に寄り添う力が求められます。複数人のスタッフが関わるひろばでは、日頃から振り返りの機会を持ち、スタッフ同士が支えあう、学び合う環境づくりも大切です。

* 渡辺顕一郎、杉山恵理子他(2006)「拠点型地域子育て支援におけるプログラム活動のあり方に関する研究」(主任研究者:渡辺顕一郎)、平成17年度児童関連サービス調査研究等事業報告書、財団法人こども未来財団

Q ひろば型の特徴はどのような点でしょうか？

A 常設のひろばの開設や拠点の設置という点、赤ちゃんコーナー等の配置や、おもちゃ・絵本の整備等の環境設定や遊びのプログラムを考えがちですが、ひろばは安心して生活を共にする場であることが特徴です。親子の出会いや交流を大切にしながら、安心して子育てできる環境をつくり、親として自然と子育ての力を発揮できる土台を支援する場です。また、ひろばは、子どもが生まれたことをきっかけに、大きく変化する親の生活環境や不安感に寄り添いながら、子育て家庭と地域をつなぐ役割を持っています。開設場所として、空き店舗やショッピングセンターなど生活に密着した場所に立地しているのも特徴的です。生活場面の中で、気軽に参加できること、誰にでも開かれた場であることが大切です。

Q 学生ボランティア、地域のボランティアの日常的受け入れはどのような効果があるのでしょうか？

A 積極的に地域のボランティアを受け入れることで、ひろばはより開かれた場となり、利用者の同質性を緩和することができます。学生にとっても、子どもたちと遊んだりケアする経験により、「気づく」「変化できる」自分を発見できる場となります。また、世代を超えた関わりは、人同士が関わる力をより深めることができます。そして、なによりも、地域の人たちが関わることで、子育てを支える地域のネットワーク力の向上や、親子の成長を見守る温かい地域づくりにつながります。

Q ひろば型とセンター型との事業内容の違いは何ですか？

A ひろば型は、常設のひろばの開設により、子育て親子が気軽に集い、相互に交流することのできる場を提供し、子育てに関する相談や情報提供などの取組を行うものです。また、子育て親子がひろばを利用できない地域において、週1~2日、ひろば型と同様の事業を行う出張ひろばの開設や、学生ボランティアの受入れ、世代間交流の実施など地域の子育て力を高める取組を行います。一方、センター型は、子育て全般に関する専門的な支援を行う拠点としての機能とともに、関係機関や子育て支援活動を行うグループ等と連携し、親子交流や子育てサークルへの援助など、地域に向いた活動を行うことが必要です。

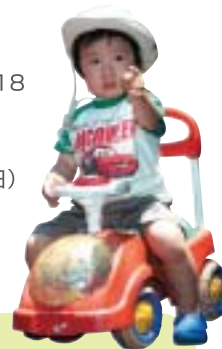
おやこの広場びーのびーの

“誰もが集う地域の縁側”を目指す「ひろば」は、商店街に親たちが立ち上げた「もうひとつの家」。



プロフィール

運営主体 特定非営利活動法人びーのびーの
 所在地 〒222-0021 神奈川県横浜市港北区篠原北1-2-18
 TEL.045-439-7447 FAX.045-439-7448
 開設 平成12年4月
 開所時間 9時30分～16時(月・火・木・金)、13時～17時(水曜日)
 スタッフ 非常勤8名(保育士2名)
 親子ボランティア5名、シニアボランティア4名
 利用者数 月間延べ人数約600人



平成12年、“自分たちの子育てを豊かにする場(常設の親子の居場所)を、自分たちの手で作る”ために、横浜市港北区在住の母親たちが立ち上げたNPO法人びーのびーの。駅に程近い商店街の空き店舗を利用しみんなで作り上げたおやこの広場びーのびーののです。

自主的活動から2年後、びーのびーのの活動がモデルのひとつになり、厚生労働省による「つどいの広場事業」が創設。横浜市でもひろば事業がスタートし、市内には現在25ヶ所のひろばが開設されており、びーのびーのは、全国に広がる「ひろば型」子育て支援事業の草分け的存在となりました。

利用者の声

この広場を知ったのは買い物の途中……でも、その時は入れず何度か前を通って様子を見ていました。子どもが8ヶ月を過ぎた頃に初めて利用し、その後はほとんど毎日来ています。私は妊娠中にこの地域に引越してきたので知り合いもなく不安でしたが、こういう場所が近所にあったのは本当にラッキーでした。

事業の特徴

20坪ほどの明るい空間に、親子が自然な輪となって集うびーのびーのは、街の歴史を感じさせる商店街の一角にあります。毎日約15組の親子が利用するこの広場のコンセプトは「もうひとつの家」。子どもも大人も居心地の良い場所、気軽に立ち寄れる“敷居の低い”場所を目指しています。その事業活動を支える大きな力となっているのが「親子ボランティア」「学生ボ

ランティア」「シニアボランティア」の存在。特に利用会員でもある「親子ボランティア」は、“会員同士による子どもの預かりあい”など利用者のニーズを反映した様々な企画を自ら立案・実施しながら、スタッフとの合同ミーティングを通じて積極的に運営に参加、びーのびーののスタッフは「親子ボランティア」の活動をサポートしています。また地域に住む「シニアボランティア」

が自然に活動に参加。親子の輪の中に溶け込み、地域交流・異世代交流を楽しんでいます。なおびーのびーのは、何かを教える場、イベントをする場ではなく、いっしょに過ごす「くらしの場」を大切にしており、利用者からボランティア、そしてスタッフへと循環が育まれていきます。